

竜丘地区文化祭

四年ぶりに盛大に開催される



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,628人
男子 3,200人
女子 3,428人
世帯数 2,660戸
(5年11月末現在)

公民館活動の再始動の文化祭が

十一月十一日、十二日に開催されました。

前日の雨が上がり木枯らしが吹く天候の中、緑ヶ丘中学校の吹奏楽部のファンファーレを合図に令和五年度竜丘地区文化祭が幕を開きました。

羽生武彦公民館長より、今年「公民館活動の再始動の文化祭」と四年ぶりの開催に寄せる期待・意気込みの挨拶があり、続いて長野県公民館功労者他五名の方への表彰式が行われました。緑ヶ丘中学校の吹奏楽部の若さ溢れる演奏がオープニングに花を添えました。

各会場には四十以上の団体の活動の様子を伝える見ごたえある展示が飾られました。

創立五十年を迎える民俗資料保存委員会のブースでは、所蔵されている石臼で大豆を挽く体験コーナーがあり、石臼を囲み昔を懐かしむ人の輪が出来ました。大ホールには各分館が地区の歴史を紐解いたり、変遷を語るものや現在の活動内容を伝えるなど工夫を凝らした展示が並びました。

屋外ではトンボ玉作り、森のクラフトコーナーのほか、新しい催し「ニュースポーツ」「モルック」の体験も行われました。軽食部門も復活。初参加となる飯田市連合青年団による綿あめ販売には多くの子どもさんが列を作りました。

文化祭の最後は羽生館長の「竜丘万歳」の掛け声と同時に「餅投げ・宝投げ」が行われ、幕を閉じました。スタッフとして支えた中学生の活躍も目を引きました。今年成功を挙げていくために若い世代の参加に期待をしたいと思います。



準備に協力していただいた各分館の皆さんには、前々度よりも盛り上がり、今年も自治会、地域振興委員会、竜丘保育園が協力して育てたとうもろこしを使ったポップコーンを無料提供しました。かわいい保育園の子ども達が、館内放送で案内をしてくれたので、大勢の方が来てくれました。



二日目の午後、南側駐車場で鈴岡太鼓の演奏発表があり、大勢の方が観覧してくれました。

最後の宝投げでは、ちびっこの部として、小学生以下のお子さん向けにお菓子投げを中学生ボランティアがやり、その後の餅投げでは、子供たちに注意しながら大勢の大人の皆さんに餅投げができました。

十一月初め、新聞で見頃だと言う箕輪のみみじ湖紅葉祭りに妻と行きました。もとより評判が良かったが、旅行サイトやSNSにより知名度と人気が上がり、県外からも観光客が訪れ、地域住民の迷惑になる渋滞が発生し、昨年よりマイカー規制と有料駐車場になったらしい。駐車場も時間単位でネット申請か：四苦八苦して初めてのスクリーンショットを使用して駐車券を取ることができました。



おかげさまで天気に恵まれ、道中は仮設の信号機などがあり、ダム湖へ続く狭い道もスムーズに通過することができました。過去、混雑を避けるために単車で来た時、車のすれ違いが出来ず大渋滞だったことを思い出しました。

駐車場では県外ナンバーを多く確認し、シャトルバスに乗り込みました。車窓より既に、色付いたのみみじが出迎えてくれた。

降りるとすごい人だかり。皆さんお目当ての、もみじのトンネルに向かって歩いていきます。妻は初見、スマホを取り出し写真を撮りながらどんどん奥へと入って行く、夢中だ！トンネルは勿論、散策コース周辺のもみじも赤黄緑とグラデーションであり、溪谷や斜面など日差しが当たり具合で、とても美しく観ることができました。

五十年の集大成

民俗資料保存委員長 佐々木 政臣

委員会発足のきっかけは、飯田市教育委員会から「各地区の古い道具類を集めて保存しなさい」との御触れから。その後、集めた品物を保存し、分類し、見ることができるよう展示しました。

この他の活動として、「丘の語り部」という、戦前・戦中・戦後の人々の思いを文章に残したこと、地区内の石造文化財をほぼ全てを調査し発表したこと、土蔵に保存してあった児童自由画を紹介できるようにしたことなど、多岐に亘ります。

明治維新以後今日までおよそ百五十年余りを経ました。時代の変化とともに竜丘地区の産業や生活も大



大きく変わってきました。無きことを肝に銘じて、よく生きていかねばならないのだと思います。過去のいきなり現代に至るまでの経過があったことを私たちは忘れてはならないと思います。

そのことをこれらの道具や絵、石仏などが教えてくれるのです。今の私たちが、今思う人は、何人いるでしょうか。私たちが、先人の知恵や苦労、努力の上に立って、今を生きているのだと

有料になったことで、整備がなされていると聞ききました。以前は歩道も悪く歩きにくい階段などでしたが、今季、広場や遊歩道が整備され快適に散策する事ができました。税金も用途がはっきりわかり、快適に暮らせるように使用してもらいたいものです。



地域とのつながりを大切に

中学生ボランティアから考える公民館活動

今年度から「緑ヶ丘中学校ボランティア事業」が始まり、様々な公民館活動で中学生の姿を見かけます。

三年生の平澤千博さんは「これまでコロナ禍で文化祭に来ることができなかつたが、今年は文化祭のボランティアの募集があつて、中三で最後になるので参加することにしました」「人がたくさん来てやりがいがある」と話してくれました。資料館の収蔵品の虫干しにも参加し、文化祭が二回目の参加になりますが、竹とんぼの制作の補助を行いました。

一年生の田本悠珠さんは「地域の役に立ちたい、運

営することが好きなのでやってみたく思つたことがきっかけで、人形劇と文化祭で参加し、公民館の人と顔見知りになり、挨拶をしてくれたりするのがうれしい」と話してくれました。

三年生の杉本渚紗さんは「コロナ禍でボランティアに参加することがなかった。三年になって地域に役に立てる事があるのだと分かつて参加してみようと思つた」「最初はボランティアって難しいかなと思つていたが、地域の方が気さくに接してくれて、気軽に参加しても地域の役に立てると分かつてよかった」と話してく

公民館活動を敬遠する大人もいる中で、「地域にかかわりたい。地域の役に立ちたい」という中学生の気持ちは大変貴重なものだと思います。また、「地域の方が挨拶をしてくれてうれい」という言葉から、竜丘公民館のスタッフ「知りあつて 触れあつて 学びあおう」を体現しているように感じます。

この事業は、中学生にも公民館活動に参加してもらい、公民館活動を身近に感じ、将来の地域の担



手になつてもらいたいという目的で行われています。その仕組みは、まずボランティアに登録し、自分の参加したい活動に申し込んで参加するということです。竜丘の登録者は二十五名、文化祭までの参加者は延べ四十二名となっています。

今後、多くの中学生が公民館活動に参加するでしょう。大人として地域を担う姿を見せるとともに、暖かい言葉がけをしたいですね。

元気よくひびくあいさつ 私から地いきの人へつながるえがお

令和五年度 竜丘あいさつ運動 最優秀標語

十月二十三日から十一月三日まで、竜丘あいさつ運動が行われました。

「あいさつ運動は、大人から子どもへあいさつをするこつとで、子どもたちを元気づけ、地域ぐるみで子どもの育ちを応援する」啓発運動です。

期間中は、登校時間帯に竜丘公民館育成委員会と各分館、竜丘小学校校外指導部や、ぶ

竜丘古墳の会 古墳見学会

松尾の古墳を訪ねる

竜丘古墳の会長 小林 正春

竜丘古墳の会では十一月二十五日に公民館に集合、初めの会を終え、四台の車に分乗し松尾の古墳を訪れました。公民館長以下十六人の一行です。

代田山狐塚古墳は古墳時代前期東海地方の影響で造られた前方後方墳で、市内で最も古い古墳。八幡山古墳は帆立貝型古墳で、五世紀前半に造られた古墳。おかん塚古墳は前方後円墳であるが東側の石室だけが残り、築造時期は六世紀終わりから七世紀初めころ。この五つの古墳を見学しました。

竜丘にない古墳時代前期の前方後方墳代田山狐塚古墳、竜丘と共通する帆立貝型古墳の八幡山古墳、古墳時代後期の横穴式石室は形も規模も異なる三基の古墳を古い時代順にみることでできました。古墳時代、竜丘・松尾は前方後円墳の築造数も拮抗し、互いに関連しながら地域経営がなされて

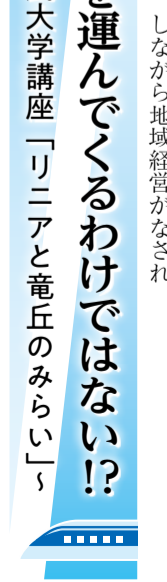


リニアが恩恵を運んでくるわけではない!?

市民大学講座「リニアと竜丘の未来」

竜丘公民館文化事業・市民大学講座が、リニア時代の地域づくりの議論の場として三組の発表者をお呼びし、十一月二十六日に行われました。

リニア開通により東京名古屋更には大阪が一時間強でつながる巨大都市圏が生まれ、飯田市もその圏域内



上川路まつり

十一月三日、四年ぶりに上川路まつりが開催されました。三十回目の節目の年もあり、公民館役員をはじめ、多くの皆さんに協力をいただき開催方法の検討が行われ、子どもから大人まで楽しむことのできる新たな催しが企画されました。

展示会場では、公民館活動の報告、いきいき教室・写真クラブ・園芸クラブの

作品が華やかに展示され、鑑賞者は芸術の秋を満喫。屋外会場では消防団企画のファイヤーレンジャー、屋内会場では輪投げや魚釣りゲームなどに多くの子どもたちが集まり楽しい時間を過ごしていました。

区民が一堂に集まる昼食会では、第一回から上川路まつりに多大な貢献をされた方々に感謝状が贈られました。その後、昼食をとりながらビンゴゲームやお楽しみ抽選会が行われ笑いと拍手で盛り上がり、久しぶりに区民の親睦が図られました。



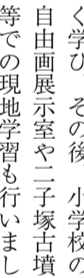
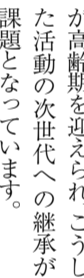
区民が集い 楽しい催し 盛り上がる 第十六回 南信州獅子舞フェスティバル

駄科下平獅子が勇壮な舞を披露

駄科下平獅子は鈴岡城ゆかりの地から「すずおか獅子」とも呼ばれていて、駄科の平地地籍に保存会があり活動しています。

フェスティバルが始まると雨も止み、それでも晴れたり小雨が降ったりの中、四箇所の演目所で参加団体が、それぞれの演舞を披露しました。

駄科下平獅子の最後の舞の時には突然の豪雨に見舞われましたが、雨にも負けず勇壮な舞を披露しました。



駄科下平獅子

十月十五日に飯田の丘の上の中央通りをメイン会場に第十六回南信州獅子舞フェスティバルが久しぶりに規制がなく開催され、駄科下平獅子保存会の皆さんが二年ぶりに参加しました。

当日の朝方は雨降りでしたが予報では止むとのことだったので開演は雨で出演を

